

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2016.7

No.117



結核のない世界へ 2016-17 日本
2016年度
複十字シール図案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第20回結核予防関係婦人団体中央講習会開催



開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成28年2月9日・10日の2日間、東京都千代田区のKKRホテル東京において秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第20回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

全国各地より101名が参加し、結核、COPD、受動喫煙などの貴重な講演や班別討議が行われ充実した内容の2日間となりました。(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

第67回結核予防全国大会開催

平成28年2月5日神奈川県横浜ベイホテル東急において、秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第67回結核予防全国大会が開催されました。

また、同大会で第19回秩父宮妃記念結核予防功労表彰式が行われ、本協議会からも神奈川県地域婦人団体連絡協議会が事業功労賞(団体)を受賞し、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)



大会式典にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

第二十回結核予防婦人団体中央講習会 おことば

平成二十八年二月九日(火)

本日、「第二十回結核予防婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、全国よりお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

今年は、この講習会が二十回目の節目を迎えました。

結核予防婦人会の皆さまが、高い志の下、人々の結核予防に対する知識を高めるためにさまざまな活動に取り組まれ、地域の人々と行政との架け橋となり、大きな役割を果たしてこられたことに対し、改めて、深く敬意を表します。

昨年五月には、結核患者に対するDOTS（直接服薬確認療法）における服薬支援者として、「結核予防婦人会員」が厚生労働省の通知に明記されました。これも、皆さまの活動が認められた証といえるのではないのでしょうか。

かつて国民病と恐れられていた結核も、結核予防婦人会の皆さまをはじめとする多くの方々のためぬご努力によって、著しく減少し、昨年、国内の新たな結核患者数が初めて2万人を下回りました。

とはいえ、欧米諸国と比較しますと、日本は依然として罹患率の高い中東延国であり、平成二十六年には、年間二〇九九人が結核で亡くなりました。また、七十歳以上の患者数が全体の約六割を占めることや、外国生まれの人の割合が二十代の患者の四割以上を占めることなどの課題もみられます。一方、世界では、一年間に約九百六十万人が結核を発病し、約百五十万人が死亡しています。人々が国境を越えて活発に移動する現在、国内の結核を制圧するためにも、世界の結核を減らすことが重要と言えましょう。

昨年十二月、世界の人々の健康を改善するための国際会議が、「ユニバーサルヘルスカバレッジ」をテーマとして開催され、貴重なお話を伺う機会がありました。結核に関する国際的な連携組織である「ストップ結核パートナーシップ」の事務局長によれば、世界の貧困層の人々が、結核に感染しやすく、ひとたび発病すると治療を続けることが難しいそうです。日本が戦後、結核対策で成果を上げたことを高く評価するとも言われていました。また、途上国からの参加者の結核予防活動などの対策に関する発言には、日本の支援に対する感謝の言葉もありました。

結核予防婦人会の皆さまのご活動は、こうした日本の結核対策や海外での結核予防会の活動を支える上で大きく貢献されており、大変心強く思っております。これから二日間にわたって開催される講習会が、皆さまの今までのご経験や情報の交換、新たな知識の学習、そして今後の結核予防活動の更なる充実にむけた話し合いの良い機会となりますことを期待しております。

皆さまが、ご自身の健康も大切にされながら、これからの、結核予防の活動を積極的に推進され、広く人々のために力を尽くされますことを心から願ひ、開講式に寄せる言葉といたします。

第六十七回結核予防全国大会 おことば

平成二十八年二月五日(金)

「第六十七回結核予防全国大会」がここ神奈川県において開催され、全国からお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

はじめに、本日、「第十九回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに、お祝いを申し上げます。長年にわたり、結核の予防や対策に取り組んでこられましたご努力に対し、深く敬意を表します。

日本では、結核罹患率は毎年低下していますが、未だに年間約一万九千人が新たに結核を発症しています。また、結核患者の高齢化、若い患者層における外国出生者の増加や、大都市での罹患率が高いことなど、さまざまな課題があります。患者発見の遅れによる集団感染事例も発生しております。

昨日の研鑽集会では、「地域で高齢結核患者を支える―これからの地域連携―」というテーマで、様々なお話を伺いました。

高齢者人口が増加していく中、結核分野においても、高齢の結核患者の早期発見や、地域で服薬を見守る体制の強化など、結核対策における地域連携のあり方について、考える機会になったのではないかと思います。

世界では、年間およそ九百六十万人が新たに結核を発症し、約百五十万人が命を落としています。昨年十二月、世界中の人々の健康を改善するための国際会議が、「ユニバーサルヘルスカバレッジ」をテーマとして開催され、貴重なお話を伺う機会がございました。結核に関する国際的な連携組織である「ストップ結核パートナーシップ」の事務局長によれば、世界の貧困層の人々が結核に感染しやすく、ひとたび発病すると治療を続けることが難しいそうです。

日本が戦後、結核対策で成果を上げたことを高く評価するとも言われていました。また、途上国からの参加者の結核予防などの対策に関する発言には、日本の支援に対する感謝の言葉もありました。

結核予防会は、結核の予防や治療について、国内で、そして海外でも、重要な役割を果たしています。また、これに加えて、東日本大震災の被災者支援に関しても、福島県外への避難者に対する健康支援活動を継続しています。

本大会に参加されている皆さまが、日頃より結核予防活動に力を尽くされていくことに感謝いたします。これからの、皆さまがご自身の健康に留意されながら、人々の健康を支えるために、ご活躍くださいますよう心から願ひ、式典に寄せる言葉といたします。

写真で
振り返る



第20回 結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月9日・10日 KKRホテル東京)



全国各地の婦人会から
101名受講されました



岡西 雅子様には執筆された
「父の遺した戦中戦後」と「生きることは尊いこと」
の2つの書籍を元にご講演いただきました



複十字病院呼吸ケアリハビリセンター部長
(長崎大学名誉教授)千住 秀明先生にはCOPDは
リハビリを行うことで症状がよくなること、
治療が可能であることをご説明いただきました



中央内科クリニック 院長村松 弘康先生には
タバコが健康に及ぼす弊害、タバコを取り巻く
利権構造などを分かりやすくご説明いただきました



班別討議オリエンテーション
慶應義塾大学商学部 吉川 肇子 教授



班ごとに分かれて、
ある課題について話し合っている様子



各班からの結果発表



山口県結核予防婦人会理事 藤井 恵子様より
平成27年に参加されたカンボジアスタディツ
アーについてご報告いただきました



終講式では受講生代表として
福井県健康を守る女性の会 堂東 昭子様より
謝辞をいただきました

中央講習会スケジュール

テーマ：自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

● 第1日 2月9日(火) ●

- 13:10 開講式 13:10～13:40
主催者挨拶 結核予防婦人会 会長
主催者挨拶 結核予防会 理事長
総裁おことば 秋篠宮妃殿下
来賓挨拶 厚生労働省 健康局長
健康の歌斉唱
- 13:50 写真撮影 13:50～14:05
- 14:15 講演①(40分) 14:15～14:55
『世界の結核と日本
～アジアの結核を減らさなければ、日本の結核は減らない～』
公益財団法人結核予防会 理事・国際部長 岡田 耕輔
- 15:05 講演②(30分) 15:05～15:35
『ワクチンで子どもを守ろう—BCG接種—』
公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨
- 15:35 講演③(30分) 15:35～16:05
『結核と闘った父・岡西順二郎の思い出』
岡西順二郎(元都立府中病院院長)の三女 岡西 雅子
帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科長 教授 網野 寛子
- 16:15 講演④(30分) 16:15～16:45
『COPDは予防と治療が可能な病気—早期発見、早期治療の重要性—』
公益財団法人結核予防会複十字病院呼吸ケアリハビリセンター部長
(長崎大学名誉教授) 千住 秀明

- 16:45 講演⑤(40分) 16:45～17:25
『喫煙および受動喫煙の有害性～理解されないのはなぜか～』
中央内科クリニック 院長 村松 弘康

● 第2日 2月10日(水) ●

- 8:30 講演⑥(30分) 8:30～9:00
『結核予防婦人会活動と複十字シール募金運動の意義』
公益財団法人結核予防会 事業部顧問
公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
理事・事務局長 山下 武子
- 9:10 班別討議⑦(140分) 9:10～11:30
『考える・まとめる—計画を立てる—』
「クロスロードで考える婦人会活動の活性化」
慶應義塾大学商学部 教授 博士(文学) 吉川 肇子
全体発表会・総評
- 11:40 婦人会の皆様へ(20分) 11:40～12:00
- 12:00 終講式 12:00～12:20
主催者挨拶 結核予防婦人会 副会長
主催者挨拶 結核予防会 専務理事
修了証授与
受講生代表挨拶
蛍の光斉唱

第67回結核予防全国大会を終えて

神奈川県地域婦人団体連絡協議会
会長 松尾 美智代



平成28年2月4日、5日に神奈川県に於いて結核予防会総裁秋篠宮妃殿下の御臨席を賜り第67回結核予防全国大会が盛会裏に挙行されました。

これも一重に全国各地よりご参集された結核予防関係団体皆様のお力と深く感謝申し上げます。神奈川県での大会は39年ぶりと聞き及んでおります。開催地婦人会として、本部のご指導を仰ぎ大会に臨んだ私達でしたが至らない点は多々あったことと思います。皆様の温かいご協力に支えられ無事終了できましたことは何よりの喜びです。ありがとうございました。

大会では当婦人団体が第19回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞受賞の栄誉を賜りましたことは最高の喜びであり意義深くその責の重要性を会員一同痛感しております。

妃殿下とのお茶会には各県婦人会代表、開催地婦人会役員の参加による懇談会が催され、お優しい妃殿下のお言葉に感激致しました。尚一層私達の結核予防普及啓発活動の輪を広げていく更なる努力を心に決しました。

医学の進歩によりかつて国民病といわれていた結核も忘れがちの昨今ですが、いまだに中蔓延国といわれる現在、更に重視しなければ処々に発病もあると聞くと、私達の予防、啓発活動、シール募金運動は更に地域と連携し活動の推進をして行きたいと思っております。

島尾先生の特別講演「結核のサナトリウム療法と神奈川県湘南地方」により明治20年サナトリウムが鎌倉海岸に養生院として初めて

できたこと。自然環境よく、海に面した温暖快適な地として選ばれたとお話を聞き、地元会員からは知らなかったとの声が多く上がりました。永く結核予防にご尽力いただいた先生の講演は今後の私達に活動指針を指差していただけたと思います。

結核予防活動は国内だけでなく広く国際協力が必要であり、開発途上国結核予防対策の支援協力、更に国際交流を深めて結核ゼロを目指して活動して行きたいと思いません。終りに「第67回結核予防全国大会宣言」を胸に相互交流を図り、更なる活躍を祈念いたします。🐱

事業功労賞を受賞して

神奈川県地域婦人団体連絡協議会
副会長 石川 壽々子



第67回結核予防全国大会が、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、神奈川県において開催されま

した。

全国各地からご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。横浜みなとみらい地区を楽しんでいただけたでしょうか。

開催地婦人会として不行き届きの点がありましたことをお詫び申し上げます。

大会式典におきましては、尊くも秩父宮妃記念結核予防事業功労賞（団体部門）を受賞させていただきましたことは、会員一同の大きな喜びであり、これからの活動への励みとなりました。ありがとうございました。国内でも未だに発症する方がいる結核の「中蔓延国」であることから、毎年行われている中央講習会や結核予防婦人団体幹部研修会等への参加はもち

ろん、県内数カ所で行っている複十字シールキャンペーン活動を通して県民への啓発は、私達の重要な活動の一つとなっています。この度の受賞は複十字シール運動の意義を多くの会員がより深く知る良い機会ともなったことと改めて感謝申し上げます。

大会に参加した会員は、日頃行っている活動が国内だけではなく、カンボジア等の結核患者の救済にも役立っていること、それには募金活動が不可欠であることを知ることができたという声もあり、複十字シール運動への協力も呼びやすくなり、今後も多くの会員が結核予防運動に関心を高められたのではないかと思います。

また特別講演の結核予防会顧問島尾先生の「結核のサナトリウム療法と神奈川県湘南地方」は県民でも初めて知ったという方もあり、大変有意義な内容で、先生の結核との長い年月の戦いも垣間見ることができました。大会に関係された予防会の皆様に改めてお礼申しあげます。🐱



大会式典



大会式典で宣言文を読み上げる松尾会長



特別講演

「結核のサナトリウム療法と神奈川県湘南地方」

ブラジル訪問 ～日系医療、そして結核について～

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

前号に引き続き、ブラジルについてふれさせていただきます。

日系医療について

ブラジルの訪問を通して、日本人がブラジルへ移住し始めた1910年代から20年代にかけて、厳しい環境の下で、マラリアや黄熱病、トラコーマなどの感染症や寄生虫によって健康を損ねる人が多かったことを知りました。過労や栄養不足に、慣れない土地での気苦労が重なり、徐々に抵抗力を失った結果、結核を発病し床につく人も少なくなかったそうです。結核の治療法が確立されていなかった当時は、安静に療養する余裕のない移民にとって、結核は命にかかわる病気でした。

1920年代からは、日系移民の医療衛生対策のために、日本人の医師がブラジルに派遣され、移住地を巡回して診療にあたり、日本政府からの支援や募金などによって日系移民のために診療所や結核療養所が作られるようになったとのこと。サンパウロ市やベレン市には、このような日系移民向けの病院や診療所を前身とする病院がいくつかあり、今は地域の医療の拠点として、広く人々の健康に貢献しています。

こうした日系病院のひとつであるサンパウロ市のサンタクルス病院を、宮様と一緒に訪ねました。この病院は、眼科や心臓外科の手術の技術が優れており、日本食や日本語での医療サービスも提供していると聞きました。産婦人科の女医からは、ブラジルの母子保健の現状と課題などについてお話を

伺うこともできました。

現在、ブラジルでは約1万5千人の日系人医師が病院や診療所などで仕事をしています。この度の訪問で、アマゾン川流域などで医療を十分に受けられない地域に出かけ、人々の健康を支える奉仕活動をしているという日系人医師からお話を伺う機会がありました。こうした日系人医師たちの活躍を頼もしく感じています。

ブラジルの結核対策

ブラジルは結核患者の多い国でしたが、現在では、結核の新規患者数と死亡者数が15年前の3分の1に減りました。しかし、結核罹患率は人口10万対44であり、まだ課題を抱えています。ブラジル保健省は、国内の貧しい人たちが結核の犠牲になっていることから、そうした人々のための対策を積極的におこなっています。

ブラジルでは、重症の患者以外は、外来治療が中心になっていますが、結核の治療は、入院に要する費用を含め原則として無料であると聞きました。予防策としては、生後1か月以内の乳児にBCG接種がおこなわれているという話でした。

ブラジルの結核キャンペーン： 「検査し、治療し、打ち勝つ」

ブラジルでは、結核に関する国際的な連携組織「ストップ結核パートナーシップ」が中心となり、結核の啓発活動をおこなっています。「3週間咳が続いたら医療機関を受診する」ことを勧めると共に、「6ヶ月服薬を続ければ完治する」ことを強調しています。

この結核対策キャンペーンには、ブラジル国内で結核の治療を受けて完治した有名な歌手やサッカー選手などが協力しています。2015年は、サッカーのブラジル代表にも選出されているチアゴ・シウバ選手がキャンペーンに参加しました。シウバ選手は、20歳のときに結核を発病し、一時は片方の肺を摘出する可能性もあったほど重症でしたが、無事に治療を終えて完治しました。その後、イタリアやフランスのクラブに所属し、ブラジル代表としても活躍しています。結核の治療を続ける人たちにとって、「結核に打ち勝った」シウバ選手の姿は大きな励みになっていることと思います。👊

世界結核デーの標語 Unite to End TB 結核を終わらせるために団結しよう

世界では、まだ多くの方が結核で苦しんでいます。世界の人口の約3分の1が結核に感染しており、今なお1日に約2万6千人が結核を発病し、約4千人が結核によって命を落としています。こうした状況の中、世界保健機関（WHO）は、2016年の世界結核デーの標語を「Unite to end TB（結核を終わらせるために団結しよう）」としました。

日本でも、結核についての知識や正しい情報を広く人々に伝え、予防と治療についての意識を高めることは、大変重要なことです。皆さまがそれぞれの地域で進めている結核予防週間の取り組みや複十字シール募金運動は、国内外の結核対策に貢献する大変意義深い活動です。改めて皆さまの日ごろのご尽力に感謝いたします。👊

第67回結核予防全国大会決議

かつて国民病と恐れられた我が国の結核は、戦後官民一体となった結核対策の進展によって新規患者の発生数を45分の1にまで減少させました。その結果、2014（平成26）年には新規発生患者数が初めて2万人を割り、罹患率も人口10万対15.4まで改善されました。

しかし、結核は今日でもなお多くの問題と課題を抱えています。高齢者、社会経済的弱者、糖尿病や免疫疾患などの合併症を持つ医学的・社会的リスク者への偏在や、医療提供体制の再編整備の必要性などです。

とりわけ、高齢化において世界のトップを走るわが国では、新規結核患者の3人に2人は65歳以上です。その半数は80歳以上と高齢患者の占める割合が極めて高く、重篤な合併症を持って発病するために死亡に至る場合があります。これが欧米諸国に比べ結核死亡率が高い一つの原因となっています。

加えて、65歳以上の3割弱が何らかの認知障害を持つとされ、症状を把握されにくいことが受診の遅れに追い打ちをかける状況も生じています。こうしたことから、高齢者施設や独居高齢結核患者の早期発見と患者中心の服薬指導の体制強化が急務となっています。

一方、2014年のWHO統計によりますと、結核は世界では年間960万人が新たに発病し、150万人が死亡している感染症です。とりわけアジアとアフリカ諸国では深刻な問題となっています。また薬に対する耐性菌の問題もあり、多剤耐性結核患者は年間48万人発生しています。そして社会のグローバル化に伴って、我が国の20歳代の新登録患者のうち外国出生者が約半数を占めています。

このような状況の中、健康・医療戦略（2014年7月閣議決定）に即して策定された「医療分野研究開発推進計画」では、2014年5月に採択されたWHOの結核対策に関する新戦略を受け、2020年までに我が国が低蔓延国入りできるよう、結核に関する研究を推進することが明記されています。

グローバル化が進行する現在、我が国の低蔓延化を実現するためには、近隣の高蔓延国の結核対策に対する協力・支援が重要な課題となります。また、日本の経験を活かした結核対策の国際協力体制をより一層強化し、画期的な技術開発にも注力しなければなりません。

さらには、結核予防会の基本方針である、呼吸器疾患対策、生活習慣病対策にも継続的に取り組む

必要があります。

よって、本大会は以下の6項目の実現を期して国及び地方公共団体に要請し、その実現に向けて一層の努力をすることを決議します。

- 一、結核に関する正しい知識の普及啓発に努めること。
- 一、地域の実情に合わせた結核医療体制を提供し、結核対策の実効性を高めること。
- 一、開発途上国など結核高蔓延国に対して、人材面、技術面での国際協力体制の強化に努めること。
- 一、禁煙対策及び肺がん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）等、呼吸器疾患予防の普及啓発に努めること。
- 一、特定健診・特定保健指導について生活習慣病予防における指針のもと円滑な実施の支援に努めること。
- 一、結核予防の普及啓発や国際協力の貴重な財源となる複十字シール運動を盛り上げるため、全国結核予防婦人団体連絡協議会等、関係団体への働きかけに努めること。

平成28年2月5日
第67回結核予防全国大会

第67回結核予防全国大会宣言

わが国の結核をめぐる状況が改善の方向にあることは、これまでの罹患率などの推移で明らかですが、制圧までには様々な課題が山積しています。高齢の独居世帯や医療機関・施設などにおける患者発見と患者中心の服薬支援のために、関係機関・地域と連携し、正しい知識の普及啓発に努力します。

一方、社会のグローバル化に伴い、外国出生の結核患者の割合が増加しています。このため国際協力を通じて世界の開発途上国での結核対策の強化が急務です。我々は、日本が高蔓延を克服した経験を生かし、開発途上国の結核対策のために総力を挙げて支援します。

さらに、肺がん、COPD等呼吸

器疾患対策及び生活習慣病対策の推進を図り、皆が健康で明るい生活を営めるよう努力します。

以上、宣言します。

平成28年2月5日
第67回結核予防全国大会

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 新会長・新副会長・新理事就任ご挨拶

〈会長〉

(福岡県結核予防婦人会会長)

木下 幸子



このたび、平成28年3月14日から公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会会長に就任いたしました。これまで長年にわたりご尽力さ

れました中畔都舎子前会長の下、副会長として結核の制圧のために微力ながら複十字シール運動など積極的に取り組んで参りましたが、今回は会長という重責を担い、皆様のご協力を得て、非力ですが力の限り会務を果たしてまいりますのでよろしくご報告させていただきます。

最初に、去る4月12日秋篠宮妃殿下に、謹んで会長就任のご挨拶をいたしましたことをご報告させていただきます。

さて、皆様ご承知のとおり、結核予防婦人会は昭和25年の長野県での取り組みが全国に広がり、現在、「全国結核予防婦人団体連絡協議会」として、「結核予防会」と連携し、結核予防の啓発や複十字シール運動などの活動を60年余にわたり継続してまいりました。

結核はかつて不治の病として恐れられていましたが、現在では新規登録患者数も2万人を割り大幅に減少しました。

しかしながら、新規登録患者数の約4割は80歳以上の高齢者であり、若年層の新規登録患者数における約半数が外国出生者であるなど、患者数が増える可能性があり、まだまだ油断出来ない状況は続くものと思われま

す。また、結核制圧は、国内だけではなく世界に目を向け、発展途上国への支援を継続的に実施することが非常に重要です。

今後とも結核に関する正しい知識の普及啓発、呼吸器疾患予防や生活習慣病対策などを国及び地方公共団体と一緒に実現していくことが大切であり、その財源となる複十字シール運動を積極的に推進していく必要があると強く思っております。

最後に、本会の活動対象が少子高齢化社会での様々な問題にまで広がるな

か、会員の高齢化や会員数の減少が、組織の活性化を阻み、弱体化している現状に対し有効な方策を打ち出していくことが私の使命と考えるところです。

今後とも皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしますとともに、より一層のご協力をお願いいたしまして就任のご挨拶とさせていただきます。

〈副会長〉

(青森県地域婦人団体連合会会長)

向井 麗子



平成28年度全国結核予防婦人団体定期社員総会、並びに第2回理事会において、副会長に選任され重責に身の引き締まる思いです。

「結核予防は婦人の手で」をスローガンに全国各地で活動を開始して半世紀以上の歳月が過ぎました。亡国病と恐れられた時代は遠くなりましたが、結核の罹患者数は依然として先進国の中では中蔓延国に位置し、対策の必要は急務です。国外に目を転じると新たな結核の発症者があり、その多くはアジア、アフリカ諸国に集中しています。

結核予防婦人会は、公益財団法人結核予防会と連携し、結核予防を核に国民の健康増進を目指し、更に海外での結核予防の活性化にも尽力することを期待されています。

浅学非才ではありますが、関係機関の方々、会員の皆様のご支援、ご協力を得て「結核のない世界の実現」のため頑張りたいと存じます。

〈理事〉

(結核予防婦人会秋田県連合会会長)

小玉 喜久子



平成28年3月、全国結核予防婦人団体連絡協議会の理事を務めることとなり、更なる活動の抱負と感慨が広がっています。

平成6年御殿場研修参加の折、座長を務めることになっていた5人に、「秩父宮妃殿下のご快

癒を祈り、色紙に寄せ書きを」と言われ緊張したことが思い出されました。

過日の東京都渋谷署での結核集団感染は、「結核は決して過去の病気ではない」ことを世間が知ることとなりました。

秋田県結核予防婦人会は、複十字シール運動とハンセン病援護活動が大きな事業です。

シール運動は「家庭で出来る国際協力」と呼びかけ、会員が各戸をまわって募金のお願いをしています。ハンセン病援護活動では、らい予防法廃止後も国立療養所への交流訪問を続けています。

「ふる里に煙となって帰るというハンセン病の歴史哀しき」喜久子一人所者のお話から詠む—結核のない明日をつくるため、今まで以上に活動の充実に努める所存です。

〈理事〉

(群馬県地域婦人団体連合会会長)

関 マツ



この度、理事に就任に致しました関でございます。

婦人会に入会し30年余りとなりますが、県役員として結核予防全国大会や幹部研修会に参加し結核予防の研修を重ねて参りました。

活動としては、募金活動はもとより、毎年知事を表敬訪問し、複十字シール募金運動の理解と協力をお願いしたり、県内女性26団体が主催する男女共同参画フェスティバルには「結核をなくそう」をスローガンに啓発活動し、結核再認識と複十字シール募金運動の理解を深めるための活動を推進しています。

戦後の結核蔓延期、私の妹も結核を発症し、現在もC型肝炎に苦しんでいます。そのため特に結核制圧への思いは強く、まだまだ中蔓延国の日本の現状を再認識し、粘り強い啓発活動を推進するとともに、複十字シール募金による開発途上国への更なる支援を続けなければならないと思っております。

〈理事〉
 (奈良県健康を守る婦人の会会長)
 中島 祐子



風光明媚な大和三山に囲まれた田園風景のど真ん中に生まれ育った私が、いつの間にか八十路を越えました。

美しい環境と豊かな食生活に支えられ、今日まで医者いらずの生活を送ってきました。

戦争、敗戦、食糧難、そして時代の進歩と共に女性の地位向上に伴う社会参加等々、社会環境を真摯に受け継ぎ、気が付いた頃には、地域の女性リーダーとして数々のボランティア活動に専念させていただきました。

特に「結核」に対する意識の弱さを如何にして軌道修正すればいいのか、数々の問題が山積されていたのも事実です。「家庭の健康づくり」、「結核予防に対する女性の役割」の認識を新たに、「健康の輪を広げながら結核予防に努めましょう」の秋篠宮妃殿下のお言葉に力をいただき、心機一転、各地域で啓蒙啓発に力を注ぎ、結核は過去の病でないことを訴え続けていきます。時には、贅沢三昧な生活に馴れ親しみ「結核なんて…」とそっぽを向く人。「シール集めています。孫が喜びます」と白髪のおばあちゃんの声に勇気百倍いただきボランティア活動を自負しています。

いずれにせよ少子高齢化による人口構造は逆ピラミッド型に変貌し、結核

対策も更により深く考えなくてはなりません。

健康の輪をより以上に固く結び、心豊かな生き甲斐づくりにもう一声を張り上げましょう。そしてこの運動は世界共通のボランティア活動であることを深く認識しましょう。

〈理事〉
 (徳島県結核予防婦人団体連合会会長)
 藤田 育美



この度、結核予防婦人会理事に就任いたしました。このような重責を担い、心を新たにしております。これまで、幹部研修会や結核予防全国大会などに参加をさせていただき、多くのことを学べたことに大変感謝しております。

私自身、実父が結核で長年苦しんだ経験があり、結核予防には大変関心を持って活動に取り組んでまいりました。これまで研修会で学んだ知識をより多くの方にお伝えし、活動への協力を働き掛け、日本から結核菌をなくすために活動を継続していくことが、責務であると考えております。

現在、当団体では「結核予防活動」と併せて「たばこ病」の予防活動にも取り組んでいます。日本が肺疾患についての先進国となるにはまず「禁煙」を徹底することです。まずは徳島県から発信をしたいと考えています。

終りに、秋にはカンボジアへのスタ

ディツアーに参加を予定しています。海外の結核についての現状を知ること、世界レベルで結核の制圧に向けて活動ができればと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

〈理事〉
 (宮崎県健康増進婦人の会会長)
 谷口 由美繪



平成28年度より九州地区からの理事として就任致しました宮崎県の谷口でございます。

全国結核予防婦人団体連絡協議会の理事の一員として官民一体となって取り組み啓発活動に更に励んで参りたい所存でございます。

私は平成27年12月にカンボジア結核対策スタディツアーに参加させていただき、私達の活動の広がりや世界貢献を確認致しました。平成16年にも結核予防会でミャンマーを訪問し、発展途上国の結核対策を研修して参りましたが、日本からの応援も実り、今新しい国へと発展していく姿をテレビのニュースで観るにつけ、私たちの国際貢献活動の成果を実感致します。

自国は勿論のこと、世界中の人々を結核から救うこの複十字シール運動に誇りを持ち、活動を続けて参りたいと思います。🐱

平成28年度複十字シールの紹介 ～本当の自分はどっち？～



複十字シール みんなの力で結核やがんをなくすために 複十字シールは世界共通の結核予防運動のシンボルです。デザイン：安野光雅 公益財団法人結核予防会



今年も安野 光雅 (あんの みつまさ) 先生による複十字シールが出来上がりました。

今年のデザインに題名をつけるとしたら…「本当の自分はどっち？」普段は泥棒だけど、クリスマスにはサンタになり子供たちにプレゼントを配る。普段はしがないおじさんだけど、お正月には獅子舞を舞って世間の注目を浴びる。みなさんもいろいろな顔を持っているはず…。本当の自分はどっち？そんなことを考えたいデザインです。

多彩な複十字シールを皆さまのアイデアで広めていただき、是非ご活用ください。

公益財団法人結核予防会 事業部普及広報課



8月1日から全国一斉複十字シール運動が始まります

つきましては、全国知事表敬訪問を今年も宜しくお願いいたします。
結核予防全国大会の決議宣言についてご説明いただき、複十字シール運動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

また、9月24日～30日結核予防週間に先立ち「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」を実施します。普及と発展を図るため街頭募金活動等、昨年同様ご協力をお願いいたします。

目標は一つ 結核のない明日をつくるために！



熊本地震義援金のご報告

この度の熊本地震により被災された方々には謹んで、お見舞い申し上げます。

皆様からの温かい義援金、3,675,889円（6月10日現在）を6月13日付で熊本県結核予防婦人会に送金致しました。6月16日付で熊本県東家会長様より木下会長宛にお礼のお手紙を頂戴しました。

編集後記

先日久しぶりに高校の同級生に会いました。彼女は早くに出産したので上の子は小学6年、下は4年。二人とも習い事が忙しく一緒に過ごせる時間が減ってきたとつぶやいていました。そろそろ老後の夫婦でのプランを考えなくてはと…。まだ30代なのに！私はといえば、上が小学1年、下が3歳。まだまだ手がかり、怒鳴ってばかりのドタバタの毎日。でもいつかは巣立っていくのかと思うとこれも大切な毎日。少しは優しくなれるかな？（笑）（菅）🐱

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。

どうして

無関心で
いられるんですか

……!?

結核は、
ひとつと
ではな^い。

世界三大感染症のひとつ、結核。

それは社会の中にしぶとく残って、
人々を苦しめ続けています。

世界の結核の60%はアジアで発生しており、
わたしたち結核予防会は、
結核対策の国際協力を進めて、

日本国内だけでなく、アジアと世界の結核を
制圧するために、日々活動しています。

2020年までに、日本を結核低蔓延国^{*}に

*結核罹患率10万対10以下

+公益財団法人結核予防会
Japan Anti-Tuberculosis Association